

第1回 道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会

議事録

日 時：令和2年5月28日 15:00～17:06

場 所：札幌建設管理部3階会議室（リモート）

構成員：協議会開催要領別紙-1による

座 長：札幌市立大学専門研究員 矢部和夫

事務局：空知総合振興局札幌建設管理部、北広島市

傍聴人：なし

報道関係者：北海道新聞社、毎日新聞社、(株)北海道通信社、(株)北海道建設新聞社、
北海道放送 (株) HBC

1 開会

2 事務局挨拶

空知総合振興局札幌建設管理部事業室長 鷲尾亨

皆様方には、日頃より札幌建設管理部の事業の推進に際しまして、ご理解ご協力をいただき、この場を借りましてお礼を申し上げます。

道道きたひろしま総合運動公園線は、北広島市が計画している、きたひろしま総合運動公園のアクセス道路として、施設供用後に予想される周辺道路の交通混雑緩和を目的に北広島市が調査設計を行ってきたところ。今年3月に道道認定され、4月からは道が主体となり事業を進めているところ。

当路線の整備に当たり、事前の環境調査により計画ルート周辺に貴重な動植物が確認されたことから、専門分野の学識経験者及び地域の環境保全に知見を有する方から幅広く意見を伺い、自然環境の保全に配慮しながら、適切に道路整備を進めていくことを目的に協議会を設立した。

本日は、現在道で検討している道路・橋梁の計画概要及びこれまでの環境調査結果や保全措置内容について説明し、各構成員から意見を賜りたい。

当協議会での皆さま方の意見を参考にし、今後の工事の進め方などの検討に生かしていく考え。

本日はよろしく願いいたします。

3 協議会設置趣旨説明

協議会開催要領について、事務局より

整備に当たり、令和元年11月7日に開催された北海道政策評価委員会において、環境調査の結果を踏まえ、地形改変の影響を受ける希少な動植物は可能な限り移植等の保全措置を講じ、自然環境への負荷は最小限にとどめるよう配慮すること。また、自然環境を監視する協議会を設立し、保全措置の実効性を高めること。との意見が付されたところ。また、昨年度の北広島市における意見交換会および北海道議会において、道路設計について再検討の議論があり、特に周辺環境に配慮した橋梁の配置等について検討しているところ。

「道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会」開催要領

について了承をいただきたい。

4 協議会構成員紹介

5 座長選出

開催要領第4条第2項に基づき、札幌市立大学 矢部和夫専門研究員を選出

6 議事

(1) 道道きたひろしま総合運動公園線 事業計画説明

会議資料について、道路計画・設計概要・環境保全に関して事務局より説明

(2) 意見交換

1. 協議会設置について

在田構成員

- ・現在のアクセス道路の案は貴重な裏の沢川を通るので、あまり賛成しない立場であるが、造るのであればエコロードとして造り、整備後におけるチェックを含めた協議会を作って実施していただきたい。
- ・できるだけ協議会の意見を尊重して設計・施工を行っていただきたい。

三澤構成員

- ・協議会で聴取した意見を事業に生かすという形で、共通理解を図っていただきたい。

(回答) 事務局

- ・計画から環境保全を意識ししっかり進め、整備後のモニタリングに関しても、皆様の意見を最大限尊重し、可能な限り事業に反映したいと考えている。

2. 道路計画・設計概要について

○図面について

在田構成員

- ・現地地盤高と道路計画高の寸法比較、工事用道路の線形などについてわかるよう、1/1000 程度の設計図面を基に議論をしたい。

(回答) 事務局

- ・次回、検討中の図面を提示する。

○工事用道路について

三澤構成員

- ・当該路線の完成と西裏線の工事に時間差があるが、当該路線の完成後に工事用道路を一旦回復させ、西裏線工事時に再度工事用道路を設置するのか、そのまま存置するのか、環境への負荷がかからない方法を検討したい。

矢部座長

- ・工事の影響をどのように最低限にとどめ、復元していくかについて、考えていかなければいけない。エコロードに対する大きな問題。
- ・道路緑化やエコ緑化等の専門家へのヒアリングやワークショップを立ち上げていただき、工事用道路による負荷を最小限にとどめるための方法を検討したい。
- ・ワークショップには必要に応じて、シカとか専門家なども入っていただき、まずは、現在ある技術でどこまでできるかを確認したい。

(回答) 事務局

- ・工事用道路箇所の復元・回復方法について、協議会で意見をいただきたい。
- ・植生、法面、排水、その他交通安全施設など、それぞれに応じた環境保全の課題があると考えている。

- ・協議会で先生方のご意見を伺うが、場合によっては、個別のテーマに応じて相談することも考えている。
- ・様々な検討が必要となる案件については、ワークショップなどを個別に開催し、その結果を協議会でご提示し進めていきたい。

3. 環境保全について

○鳥類について

高木構成員

- ・4月から7月は、繁殖期に合致する時期で周囲での作業は繁殖を妨害、放棄を促す可能性が高い時期である。実質の繁殖期に入る前の求愛の時期も重要で、3月は作業をすべきではなく、またそれより前の時期も注意を要する。

○コウモリについて

福井構成員

- ・ねぐら調査区域及び面積の設定根拠を確認したい。工事用道路等に伴うねぐらの消失が懸念される。
- ・現在の調査区域は、工事用道路と離れているので、工事用道路による影響を確認出来るように調査区域を別途検討したほうが良い。

○エゾシカについて

高木構成員

- ・エゾシカの移動経路を調査した結果をどう活用するのか。

浅利構成員

- ・基本的には移動経路を確認して、集中しているところに、カルバートを入れるが、今回は橋梁を大きくする計画なので、橋梁下に誘導することは可能だと思う。
- ・移動経路をどのように把握するのか、事務局と協議したい。

矢部座長

- ・エゾシカは食害や頭数制限など、捕獲でセーブしているが、エコロードでは、シカを保全することとなり矛盾を感じる。どう考えたら良いか。

浅利構成員

- ・野幌森林公園では、ここ最近では、シカの数が増加している。
- ・この地域の考え方は、野幌森林公園にかかわる団体や北海道立総合研究機構の意見を聞くのが良いと思う。

○エゾシカ以外の哺乳類について

浅利構成員

- ・樹上性の種は、分断幅が大きくなると移動できなくなる。
- ・調査結果を基に、検討したい。

三澤構成員

- ・幅広く哺乳類をもう一度調べて、ロードキルも含めて対策を考える必要がある。

○昆虫類について

平田構成員

- ・工事をする際の動植物等に与えるインパクトという形の視点の話しか出ておらず、道路の建設が終わった後の動植物のインパクトという意識が非常に足りない。
- ・自動車のヘッドライトに夜行性の飛翔する昆虫類が多く引き寄せられ、車に衝突して死ぬという現象が考えられる。

- ・供用後、夜にどのような光の影響があるか、また、どう避けるかは、今後絶対に考えなければいけない視点。
- ・昆虫類は、その他の動物の餌資源として非常に大事なものなので、希少種だけではなく考慮しなければならない。
- ・コストと景観の面で問題があるが、全部トンネルやシールドにすれば、光の問題や冬場の融雪剤等の問題、ロードキルの問題、排気ガスの問題が全てクリアされる。

(回答) 事務局

- ・調査のロードマップは個別に相談したい。
- ・哺乳類等の調査については、個別にご相談させていただきたい。
- ・光害対策としての工法検討について、次回比較検討結果を提示させていただく。

4. 全体を通して

○現地確認について

在田構成員

- ・構成員が現地に行き、1/1000 程度の図面と比べながら議論したい。できるだけ早い時期に、そういう機会をいただきたい。

(回答) 事務局

- ・現地確認、現地調査を実施したいと考えている。
構成員全員とするか個別にするのかは、今後事務局で検討する。

○ロードキルについて

高井構成員

- ・道路の勾配が5%となると先が見づらくなり、小動物のロードキルや、小動物を直前でかわそうとした交通事故は大丈夫なのか。

(回答) 事務局

- ・減速表示や動物通過表示などの標識類で注意喚起をするような対応を検討している。
- ・各動物等の経路を確認した上で、施設の検討と提案を行い、協議会のご意見いただきたい。

○報告書について

在田構成員

- ・道路整備後のモニタリングも実施し、エコロードとしての整備目的に対して、このような役割を果たしていると、後の人に役立つような報告書を作っていただきたい。

矢部座長

- ・この成果が他のところに生かせるよう、成功も失敗も含めてとりまとめていただきたい。

○北広島市意見交換会 12 項目の要望について

矢部座長

- ・北広島市の意見交換会で議論された、自然保護団体からの 12 項目の要望のうち、具体的な進展がないまま残った案件がある。今後どのように議論していくのか。
- ・協議会へ持ち越す事項を整理したい。

(回答) 事務局

- ・第 4 回目の意見交換会の結果をふまえ、設計や工事に反映する。

- ・12項目を精査し、さらに議論が必要な事項に関しては、テーマ毎に、今後個別に先生方にご相談したい。

5. まとめ

- ・緑化の復元性が非常に重要であり、個別にワークショップを行い検討する。
- ・エコロードのコンセプトを推し進め、工事前、供用後のモニタリングについて、将来的にどのような形で進めるか検討し、協議会で提案する。
- ・ロードキルについて、各動物の移動経路を確認した上で、対策・施設等を検討し、協議会で提示する。
- ・道路工法の検討について、経済性及び維持管理性を踏まえ、比較検討案を提示する。

6. 今後のスケジュール

- ・第2回協議会を6月に開催予定。

7 閉会